

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	22-094	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Energy drinks and alcohol use among adolescents: A longitudinal study 青少年期におけるエネルギー飲料とアルコール摂取：縦断研究		
執筆者		
Brunborg GS, Raninen J, Burdzovic Andreas J.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2022 Dec 1;241:109666. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2022.109666.		
キーワード	PMID	
青少年期、アルコール、エナジードリンク、縦断研究	36283247	
要 旨		
<p><b>目的：</b>アルコール摂取は青少年の健康状態を悪化させる主な原因である。エナジードリンクの摂取はアルコール摂取の危険因子である可能性がある。本研究の目的は、ベースライン時のエナジードリンク摂取頻度とその後4年間のアルコール摂取との関連を評価した。</p> <p><b>方法：</b>対象は2017年にノルウェー全土33中学校に在籍する地理的・社会経済的に異なる青少年を対象としたMyLife研究参加者であり、2017年から2021年に毎年eアンケートによりエナジードリンクに関する有効回答が得られた青少年2,916人(女子56%)、調査開始時の平均年齢14.3歳(標準偏差0.85)を解析対象とした。アルコール摂取はAlcohol Use Disorders Identification Test Consumption (AUDIT-C)に基づき、過去12ヵ月間のアルコール摂取頻度、1回あたりの標準摂取単位数、1日5単位以上摂取した頻度を収集し、AUDIT-C標準的スコアリングに従い、0~12のスコアを合計した。解析は初期アルコール摂取状況および年間変化率に関して、潜在的交絡因子(家族要因、個人特性、タバコ、電子タバコ、大麻など薬物使用状況等)で調整した推定成長曲線モデルを使用して検討した。</p> <p><b>結果：</b>ベースライン時のエナジードリンクの摂取頻度が高いほど、同時アルコール摂取量が多く(<math>p&lt;0.001</math>)、経時的なアルコール摂取量は増加(<math>p&lt;0.05</math>)したが、アルコール摂取の進展にわずかな差であった。エナジードリンクの同時アルコール摂取に対する影響は女子で強かったが、経時的増加に対する影響は男子の方が強かった。また経時的なアルコール摂取量は家族特性や個人特性、他の薬物使用で調整しても有意に増加したが、影響の大きさは小さかった。</p> <p><b>結論：</b>青年期初期におけるエナジードリンクの摂取は、青少年期を通じてよりアルコール摂取量の増加と関連したが、ノルウェーの青少年を対象とした今回の集団では、その影響の大きさは比較的軽度であった。青少年期におけるエナジードリンク摂取を予防することは、アルコール摂取予防において果たす役割は小さい可能性が示唆された。</p>		